

事務事業名		黒袴のまちづくり事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	3 魅力と活力ある産業づくり				担当組織	担当部	都市建設部	担当課	都市整備課
	政策	1 産業振興で活力のあるまちづくり				担当係	市街地整備係	担当課長名	小野 英世	
	施策	3 北関東自動車道沿線開発と企業誘致の促進				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 産業団地造成の推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	11519	一般	8	4	2	黒袴のまちづくり事業				
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H21年度～H31年度		根拠法令 条例等	・土地区画整理法 ・都市計画法 ・農地法		事業区分		
								市単独事業・国県補助事業	市単独事業	
								任意的事業・義務的事業	任意的事業	
								実施方法	直営	
								事業分類	その他市民に対する事業	
								リーディングプロジェクト	該当なし	
								市長マニフェスト	該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		平成27年度実績(平成27年度に行った主な活動内容)					
いわゆる黒袴第二工区について、市施行の土地区画整理事業による産業団地整備を行うという大きな目的は、平成25年2月1日付けで事業化されたことにより達成された。 このため、平成25年度以降は、もう一つの目的である、『まちづくり組織「黒袴のまちづくり研究会」との協働による黒袴町全体のまちづくりを検討する。』ことについて活動している。		「黒袴のまちづくり研究会」の運営支援。 研究会を開催(平成27年11月19日)し、平成22年度に策定された「黒袴のまちづくり構想書」の提案事項に対する市の状況報告、西浦・黒袴土地区画整理事業の工事進捗について説明を行った。また、町会から要望書(公共下水道及び上水道の町内全域整備)が提出されたことに伴い、まちづくり構想書の構想内容との観点から協議を行った。					
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
まちづくり研究会開催回数		回	1	1	1	1	1

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

まちづくり研究会委員		対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
		まちづくり研究会委員数	人	16	16	16	16	16

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

まちづくり事業を提案する。		成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
		まちづくり事業の提案回数	回	0	0	0	1	1

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

産業団地が造成されている。		上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
		佐野インター産業団地(第2期)造成進捗率	%	4.0	38.0	66.5	100.0	-

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	2	2	2	14	14	
	事業費計(A)	千円	2	2	2	14	14	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			食糧費	2	食糧費	2	食糧費	2
							消耗品費	3
						食糧費	11	
人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	
	のべ業務時間	時間	500	500	500	500	500	
人件費計(B)	千円	1,946	1,971	1,947	1,947	1,947		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,948	1,973	1,949	1,961	1,961		

事務事業名	黒袴のまちづくり事業	担当部	都市建設部	担当課	都市整備課	担当係	市街地整備係
-------	------------	-----	-------	-----	-------	-----	--------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	黒袴町に佐野SASマートICが設置されることになり、利便性の向上が見込まれたが、一方で既存集落への車両の流入増に伴う安全面や防犯面、生活環境の悪化が懸念された。これらの解決のため、地域住民との協働によるまちづくりを推し進めるため、平成21年度に「黒袴のまちづくり研究会」を発足し、検討を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	佐野SASマートICが設置されたことによる集落内への車両の流入は、ゴールデンウィークや年末年始等一定の時期を除き、想定していたほどではなかった。 変わって、産業団地が整備されることに伴い、大型車両等の地域内への大幅な流入増が想定される。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成22年にまちづくり研究会において策定した、「まちづくり構想書」の構想内容についての早期実現。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	佐野新都市開発整備事業から切り離されたいわゆる「黒袴第二工区」について、市施行の土地区画整理事業による産業団地整備を行うという大きな目的は達成された。このため、もう一つの目的である黒袴町全体のまちづくりを検討することを主眼に活動した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	産業団地の整備という目的が切り離されたため、安全面、環境面といった側面でのまちづくりも求められる。	
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	平成22年にまちづくり研究会から提出された「まちづくり構想書」の具現化のため、市と地元住民との協働によるまちづくりを推進する。ハード面等の情報の提供や整備時の主体は市である。	
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	地元住民の代表である研究会委員との、まちづくりについての情報提供、意見交換、提案整理等を行うものであり、妥当である。	
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	地元住民のニーズをその都度的確に捉えることが可能である。 事業目的から切り離した産業団地の整備が開始されたことにより、産業団地の整備に伴う地元感情や要望等についての受け皿になる。	
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名		黒袴町に限定した「市と地元住民との協働によるまちづくり」組織である。
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案		現在の事業費は研究会の開催費用のみであり削減できない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	まちづくり事業の実施により受益を受けるのは市民全体に及ぶため、負担を求める余地はない。	
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	「まちづくり構想書」における提案事項の実現状況が一つの判断材料になるが、現在黒袴町において産業団地の整備が進行中であり、企業への分譲が完了(H29予定)し、新規企業の操業に伴う地元への安全面、環境面等の影響を及ぼさないことが確認できた時点で終了(解散)となる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し)		廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																										
ハード面でのまちづくりは、整備主体となる市の予算等の状況に左右され困難な部分が多いため、ソフト面からのまちづくりの提案を推し進める。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下		×	×																						